

10/25(日) まいび! 倫理対。朝目が覚めたら起きる。不思議な事が
ありまいた。涙し物して、仲々出てない、気になって仕方がない、目覚めの時
ひらめきがありまいた。思のジャポ-ンホ-ル仲にある直感、出逢まいた。

今週の倫理 947号 喜んどの子率のミソゾウ 2015.10.17 ~10.23

喜んどの子率のミソゾウ

嫌々やっても 実践ではない



え・古屋智子

十月のテーマ

気づきを活かす

A

氏は、同業者に誘われて、
経営者モーニングセミナー
(以後、MS)に参加しました。

同じ立場である経営者たちが、
さわやかな表情で、元気に挨拶を
交わす姿に魅かれて、毎週、MS
へ通うようになりました。

会員スピーチや講話を聴く中で、
人を変えようとするのではなく、
自分から変わるところに、活路を
開き、苦難を克服する道があるの
だ、と気づきました。

当時、A氏には、人を責める癖
がありました。売上が伸び悩んで
いるのも、「社員が仕事をしないか
ら」「妻の理解が足りないから」と、
周りを責めていたのです。

そうした自分を変えたいと思い、
MSの参加者に相談したところ、
強情な自分を捨てるには、目が覚
めたらサツと起きる「朝起き」の
実践が一番良いと聞き、Aさんは
さつそく実践を始めました。

翌朝、「起きよう」と決めていた
時間に、パツと目が覚めたことを
不思議に思いました。

ところが、一週間も過ぎると、

次第に起きるのが苦痛になってき
たのです。また、夜中の一時や二
時に目が覚めてしまう日もあり、
そのたびに「実践だから仕方がな
い」と無理やり起きていました。

その睡眠不足も相まって、かえ
って周囲の人を責める心が強くな
ってきたのです。

一カ月が過ぎた頃、「実践してい
るのに何がいけないのですか」と、
MSの講話に来た研究員に相談し
ました。すると、次のようなアド
バイスを受けたのです。

「夜中に目が覚めて、封だ起きる
には早いようでしたら、もう一度
休ませてもらいます」と心の中で
言い聞かせて休めばいいですよ。
それから、喜んで起きるよう心が
けるといいですよ」

A氏は、この「喜んで起きる」
という言葉にハツとさせられまし
た。実践だからと、無理やり起き
ていたのです。

そして、喜ぶどころか、(妻は今
日も起きるのが遅いな)(社員たち
は相変わらずだ。俺がこんなに努
力していることも知らずに)と不

満を募らせていたのです。

目が覚めたら起きることなど簡
単だと思っていました。が、「喜ん
で」という心がまったく欠けてい
たのでした。そして、(今日はい
いことがあるぞ)(今日も健康で起き
られる、ありがたいな)という思
いで、朝を迎えるように心がけた
のです。

三カ月が経過した頃、従業員た
ちの表情に笑顔が多くなっている
ことに気づきました。また、「社長」
と声をかけられた時、「ハイッ」と
気持ちよく返事できるようになっ
ていたのです。

「朝起き」の実践を通して、自分
が変わることの大切さを実感した
A氏。そのポイントは、心の持ち
方にあつたのです。

純粹倫理の実践は、どのような
心で行なうかということを重視し
ます。喜んで取り組んでいるのが
それとも、嫌々ながら仕方なく取
り組んでいるのかでは、大きな違
いが出てきます。

物事を行なう際には、自分の心
の状態を点検してみましよう。